

## 第33回 鹿児島県PTA連合会「小・中・高・特別支援学校PTA広報紙コンクール」審査評

### 1 総合所見

- (1) 年間3号発行している学校がほとんどである。校種・学校規模に応じて内容の充実が図られ、PTA活動活性化のための広報紙づくりへの意欲と努力が感じられた。
- (2) 学校便りと区別をしようとする編集の意図を明確にしている学校が増えてきた。
- (3) 一面に何を持ってくるか（テーマ、写真、目次的なもの等）の工夫が見られ、読者に読んでみたいという気持ちにさせる工夫をしている。
- (4) 小学校では、子どもの姿、会員の声、PTAを取り巻く課題等について、独自の視点から取り上げ、分かりやすい紙面構成で発信している広報紙が数多く見られた。
- (5) 中学校では、PTA会員の手作りによる温かさの伝わる新聞が多かった。内容的にも、生徒の学校での活動の様子やそれを支えるPTA会員の姿がうまく伝えられていた。また、校区内のハザードマップやLGBT、SNSに関するものを取り上げている学校が増えているのも目についた。
- (6) 高等学校では、役員のあいさつだけでなく、会員の声や会員の知りたいことを記事にして、内容の充実が図られていた。中には、発行の回数を絞ってPTA会員にアンケートを取り、その内容を中心に紙面を構成している学校があった。
- (7) 特別支援学校では、児童・生徒の活動の様子や成長の様子、その子どもたちを見守るPTAの関わりを記事や写真で紹介している様子が、各校の記事に見られた。
- (8) 県PTA広報紙担当者研修会・PTA広報紙コンクールのみならず、県内各地で広報紙研修会を開催したりすることにより、紙面の充実と質の向上が図られているのは喜ばしいことである。

### 2 今後の課題（留意してほしいこと）

- (1) 学校行事の紹介だけでなく、PTAとして、どのような視点で、どのような活動を行っているか等、具体的に取材し、記事にしてほしい。そうすることで、学校便りとの違いが出てくると思う。
- (2) 年間テーマ・年間編集計画等を策定し、計画的に取材、編集を行ってほしい。そうすることで、テーマに沿った記事や写真が集まり、内容に厚みのある広報紙となると思う。
- (3) 今後も、他校の優れた広報紙を参考にしたり、広報紙担当者研修会に参加したりして、PTA広報紙の内容の向上とPTA活動の充実を図っていただきたい。